

令和3年3月16日
国営海の中道海浜公園事務所**「うみなかビジョン2030
～国営海の中道海浜公園の将来像～」を策定しました。**

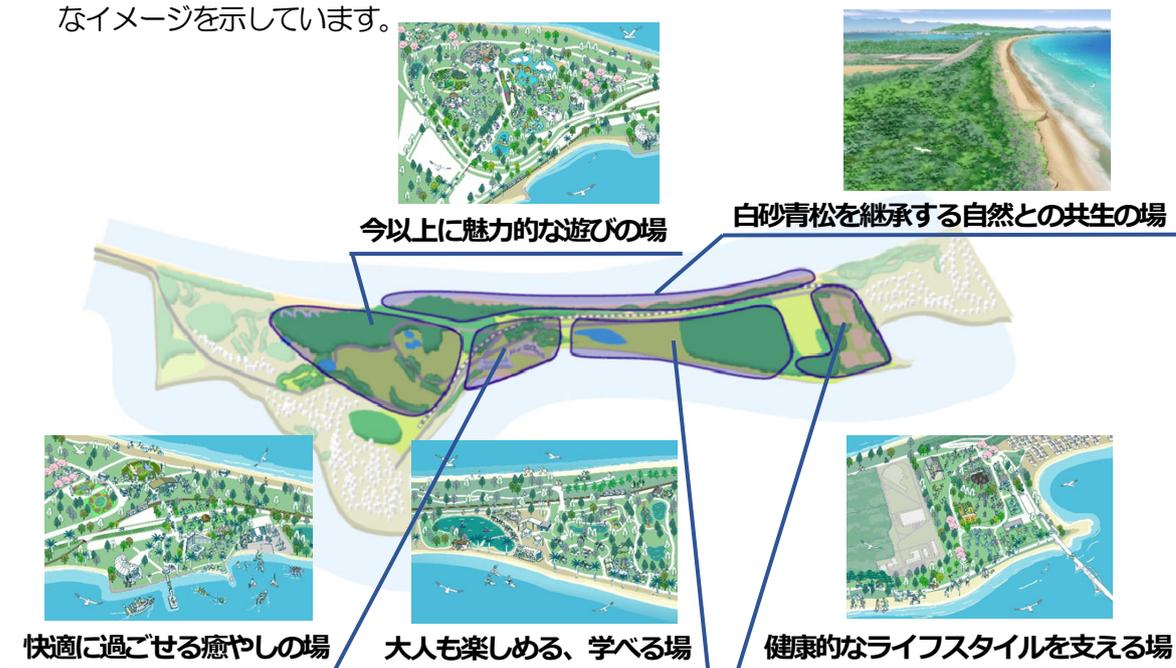
この度、国営海の中道海浜公園が概ね10年後（2030年頃）に実現を目指す将来像（ビジョン）を策定しました。（別紙参照）

本ビジョンは、コロナ禍で見通しが不透明な中、長期的視野に立ってどのような公園を目指し、何に取り組むべきか、周辺の地域と一体となって継続的に発展するために公園はどうあるべきか等について、「国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会」において協議した結果を取りまとめたものです。

今後は、本ビジョンが実現することでより一層魅力的な公園となるよう、公・民・学が一丸となり、具体的な取組を計画的・効果的に実行して参ります。

●概ね10年後の公園の主なイメージ

将来像の実現に向けた取組の結果として10年後に実現している公園内の各エリアの主なイメージを示しています。

**●「うみなかビジョン2030」の公開場所**

国営海の中道海浜公園事務所 ホームページ

<http://www.csr.mlit.go.jp/uminaka/vision/vision.html>

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所

電話番号：(092)603-1111（代表） 調査設計課長 上野 徳政（内線：351）

調査設計係長 緒方 晶子（内線：352）

うみなかビジョン 2030 概要

○策定主体：国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会^(※)

※都市公園法第 17 条の 2 に基づき、国、施設の管理運営を行う事業者、水族館（マリンワールド海の中道）やホテル（ザ・レイガンズ。）等を運営する PFI 事業者、学識経験者、関係地方公共団体を構成員として設置した協議会

○概要：協議会の構成員が、明確なビジョンを共有した上で、計画的に公園の魅力・ストック効果を高めていくため、概ね 10 年後（2030 年頃）に実現を目指す将来像として以下の 4 つを掲げ、その実現に向けた取組を連携して推進していく旨を定めたもの。

将来像 1 「オールうみなか」で人とまちに活力を生み出し続ける公園

（主な取組の例）

○既にファミリー層の利用者が多い C 地区はその魅力をより強化、Park-PFI 事業が開始される B 地区は大人向けエリアとして整備・管理運営を行うなど、利用状況、特徴等に応じた各エリアの差別化を一層推進し、多様な層へ多様な楽しみ方を提供する。

○地元と連携し、収穫体験、釣り体験等のアクティビティ、志賀島と連携したサイクルツーリズムなど、公園を起点とした地域観光への誘導を推進する。

将来像 2 海の中道の歴史、自然を後世に継承し、活かす公園

（主な取組の例）

○江戸時代から続くクロマツ林の植林の取組を紹介するガイドツアーやボランティアによる植栽、海岸清掃などを通じて市民と協働で白砂青松の景観を保全する。

○森の池、動物の森、マリンワールド海の中道など園内の多様な資源を活かすとともに、関係主体等との連携により、多様で、学習効果の高いプログラムを提供する。

将来像 3 心豊かで健康的なライフスタイルを支える公園

（主な取組の例）

○園内の園路の改修等により、サイクリング専用コースやジョギングコースなどの運動ができるコースの設定を行う。

○花を愛でながら食事が楽しめるカフェの設置や、一人一花運動との連携などにより、花や緑が豊かな環境の中でリラックスでき、ストレスを解消できる場づくりをより一層推進する。

将来像 4 多様な人の多様な学び、活躍を支える公園

（主な取組の例）

○市民発案のプログラム、地域の方がインストラクター・講師等となったプログラムなど、市民が主体的に提供するプログラムを充実する。

○ユニバーサルデザインによる園路や施設の整備、改修、本公園の災害時の避難場所としての機能を高めるための施設の耐震化を推進する。

【公園の将来イメージ例】

